自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503528		
法人名	合資会社オープンハート		
事業所名	グループホーム美優平岸		
所在地	062-0932札幌市豊平区平岸2条5丁目1-11第2柳田ビル1階		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活を送れるよう目指します」をモットーにし、利用者様一人ひとりの個性を大切にしながら暮らしを行っている。率先して食卓の準備をされたり、楽しく会話をされながら食卓を囲まれております。また地域(町内会)の方々との交流も積極的に行い、行事(イベント)参加や外出等にも力を入れております。季節行事にちなんだ食材を使い利用者様と料理をしたり、季節にあった装飾を利用者様とつくりホーム内でも季節感が味わえるよう工夫しております。職員は毎月研修会を行い、スキルアップに繋げている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170503528-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年12月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地下鉄駅から徒歩圏内にあり、近くに病院や商店街、大型マンションや団地、公園等があり、利便性や居住環境に恵まれたところである。建物は4階建てのマンションで、1階に1ユニットのグループホームとして運営している。リビングは、利用者と職員が一緒になりクリスマス飾りを作り、飾り付けをしており、利用者が楽しく過ごせるよう、心地よい空間を創り出している。利用者が居室にこもることなく自然とリビングに集まり、寛いで談話したり、ゆっくりと過ごしている。施設内の冷暖房設備から各居室内に冷暖房が行き届くように、居室入口上部に通気の開口箇所があり、夏は涼しく、冬は暖かい空気が居室内に入り、快適に過ごせるようになっている。地域との親交も深く、日帰り温泉ツアーや清掃活動に参加したり、また管理者が町内会の総会や役員会に出席するなど、地域との密接な関係維持に努めている。防災面では、年2回の防災訓練が行われており、また年1回利用者と職員全員で市内の防災センターへ行き、災害体験や研修を受けており、災害対策に対して大変熱心に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念に加えて地域との交流を重視した地域密着型サービスとしての理念を事業所独自で作成し日々のサービス提供の中で実践している。職員採用時研修には理念を伝えるためのロールプレイなどを取り入れ、職員全員が参加し組織の一員としてその自覚とプロ意識を育成すると共に職員が常に共有出来る様教育を徹底している。	事業所開設当初の会社理念に加え、地域密着型サービスとしての独自理念を作り、職員の研修やミーティングの際に確認し合い、職員間で共有しケアサービスにつなげている。その理念を玄関や共有スペースに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動(日帰り温泉等)に参加している。又散歩時等に地域交流サロンにも顔をだしたりして、暮らしやすい環境、馴染みの暮らしの継続を目指し積極的に地域の人々と交流している。	町内会に加入しており、町内会の日帰り温泉ツアーや清掃活動等に参加したり、管理者が町内会の総会や役員会に出席するなど地域との関係維持に努め、積極的に地域の人たちと交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内会役員、地域包括支援センターの職員に参加してもらい施設等案内したり、認知症の人と触れ合うことで正しい知識を持って頂き、交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には町内会役員、利用者、家族、包括支援センター職員等が参加、風邪や感染症の予防、嚥下等について研修したり、時期や状況に応じて活動内容を協議しながら実践している。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、町内会役員や包括支援センター職員、利用者、家族等が参加し、状況報告や活動報告等を報告し、意見交換を行い、ケアサービス向上に活かしている。	議事録作成の際、家族や職員、関係者等に運営推進会議の内容をわかりやすく、具体的に報告するために、要点をまとめ、簡約した内容の議事録作成を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者とは、入居に関する連携や運営に関する指導、助言を得ている。入居者様の訪問にこられ、近況報告させて頂いたり、又会議やその他の機会を利用し事業所の実情を伝える等の情報交換や対応への協力を得ている。	区の管理者会議に出席したり、運営推進会議に包括支援センター職員が参加したりと日頃から情報交換等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず身体拘束などの研修会を開催し、その他外部の研修会があった時には参加させて頂き、研修会で職員間の意識を統一して取り組んで身体拘束のないケアを行っている。	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、研修会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠をせず、自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待の研修会を開催し、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めていると共に職員同士意識を高めあい、日々のケアに努めている。外部の虐待に関する研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回必ず、権利擁護や成年後見に関する制度の理解を深める為に研修会を開催して理解して頂き、同じ目標に向かって確認を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な説明を行い理解、納得を計られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室など利用者が落ち着いて話せる場所において雰囲気を作っている。面会時、会議等でモニタリングシート、アンケートなどに意見を頂き、話の内容などを運営に反映させている。	家族に毎月アンケート調査を行ったり、来訪時に意見や要望を聞きいれたりしている。また、家族からの情報を連絡ノートに記入し、職員間で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員専用ノートに記入したり、月1回のミーティング、研修会などで話し合いを行い反映させたり職員一人ひとりに担当役割分担を行い連携を図っている。	定期的に会議を行い、職員からの意見や提案等を聞く機会を設けている。多くの意見等があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とこまめに連絡を取り合ったり、月1回のカンファレンス、ミーティングの際、話し合いを設けたりして反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内がきた場合参加したり、ホーム内でも月1回研修会を開催し日々のケアの中でより良い介護が出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1度のカンファレンス、研修会を実施し、話し合いの場を設けるだけに留まり、今年度はなかったが他同業者との交流に参加することがあれば参加したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人と面談させて頂き、入居に対する不安や生活を聞き取り、それに添って安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時など家族より不安などをお聞きし受け止めるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等が必要としている支援、他のサービスを見極め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理等日常生活の中で知恵を頂き、日々の生活を共に支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話などで日々の出来事を伝え共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所などが常に途切れていかないように維持して努めている。(知人や家族が来訪された際外出支援している)	行きつけの美容室や商店等、馴染みのある場所や利用者の友人、知人が来訪するなど、常に関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作り、掃除、ティータイム、レクリエーションなどの声掛けをし利用者同士が関わり合い等出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とする利用者様が今の所いらしゃいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが会話の中で希望や意向等を把握し、カンファレンス、ミーティング等で意見交換を行い、困難な場合は本人本位に検討を行っている。	利用者の言動や行動、表情等から思いや意向を汲み取り、把握に努めている。把握が困難な場合は、過去の生活歴や家族からの意見や思いを参考にしながらケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学时、入居時、ご家族、利用者様と話し合いを行いアセスメント等に記入して頂いたりして、生活環境を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において現状を把握し心身状態の変化がある場合、記録しカンファレンス等にて全職員に伝え、また申し送りを行い注意をはらい努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、介護支援専門員との話し合いの中で意見やアイデアを出し合い介護計画を作成している。またご家族にアンケートを実施し、面会時に日頃の様子を報告しながら意見を頂き、作成している。	利用者や家族、関係者と話し合い、職員による担当者会議等で意見やアイデア等を反映し、一人ひとりに合った介護計画を作成している。3ヶ月に1度見直しを行っており、状況変化に応じて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や申し送りノートに記入したり日々の生活の中で変化や特変があればその日、勤務の職員が管理者に報告し、指示を仰ぎ、全職員が情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や散歩、ご家族との面会や外出、外泊など様々な支援を行っている。夏の暑い日などにはアイスクリーム等を召し上がられたりと、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族、地域包括、町内会の皆様とも協力し、ご本人意向や必要性に応じ、その人にあった支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、訪問診療をご本人、ご家族の希望にそって行っている。他病院に受診される時もご家族に連絡し、相談を行っている。	月1回の往診や、週1回看護師が利用者の健康管理をしている。他病院で受診される場合でも家族へ相談するなど連携を密に取りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との情報を密に行い、利用者様の健康管理に常に気を配らせて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者に情報交換をまめに行い、相談したりして、早期に回復して退院出来る様に関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携指針を早い段階から本人、家族などと話し合いを行い、十分説明させて頂いております。	早い段階から利用者本人、家族と協議、説明をしている。重度化した場合は家族へ再度説明し、希望に沿った対応をしている。看取りに関して、職員間で勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災センターに出向き、救急講習会に全職員が参加し、AED等を使用した応急手当の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に避難できるよう、日頃から避難訓練に参加し、研修会等で災害対策の知識、情報を共有し、地域の方にも協力して頂いている。	年2回防災訓練を行い、日中と夜間の火災を想定し、地元消防署や地域住民の協力を得て実施している。また、防災センターへ行き、防災体験や研修を受けるなど、災害対策に対して熱心に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性を尊重し、声掛けや接し方を工夫している。(聴力の弱い人には耳元でお話させて頂いている。)	利用者への呼称は、「～さん」付けで声かけを行い、聴力の弱い利用者には耳元で話すなどしている。本人の人格を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で、利用者の希望や思いをお聞きし、叶えられるよう支援をさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごされている時は、ご本人のペースを尊重して、見守りや声かけをさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者1人ひとりのおしゃれの好みを大切にして、髪型、服装、化粧など支援をさせて頂き、レクリエーションでマニキュアをさせて頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と共にお話をされながら調理や食事、後片付けを行って頂いている。個々が持っている出来る力を発揮し、活かせるよう支援させて頂いている。	利用者の健康を思いやり、専門の栄養管理士による食事メニューを作成している。また、利用者が職員と一緒に食事準備や後片付けの手伝いもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリー計算されたバランスの良い献立や行事食を提供させて頂き、個々の体調等に合わせたお粥やキザミ食等に対応し、水分補給も1日を通し、摂取できるよう支援させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔洗浄が出来る様、声掛け見守りにて行って頂いており、又介助が必要とされる場合は支援させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿感覚を把握し、トイレへの声掛け、誘導を行っている。必要な場合には付き添い介助も行っている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成して排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。介助が必要な場合は、付き添ってトイレ介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に及ぼす影響を理解し、毎日の排便確認を欠かさず行ない、朝・夕の体操や食前の体操、レク等を行い、飲食物は栄養士が考えたメニューを用いて工夫し、毎食後やおむつの時に水分等も進めるように予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	外出等され汗をかかれた時や失禁した時等も入浴して頂き、体調不良時や気分の優れない時、病院受診の日等にも気をつけ個々に支援させて頂いている。	入浴は毎日13時から15時、場合により16時半までとしているが、体調や気分がすぐれない時などは利用者個々の希望に合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調により、入浴後、外出後に気分の悪い時は休んで頂いたり、眠れない時には本人と会話したり、自室でTVや読書等をして頂き、本人が安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の薬の支援は、受診時、往診時、急変時にその都度職員が状態をきちんと把握管理させて頂き、声掛け見守りして、きちんと服用出来る様に確認し、カンファレンス等でも確認させて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人ひとりの役割を作り、行って頂いている。好きな事や得意な事等を取り入れて行って頂いている。(読書、手芸、トランプ、ぬり絵)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望がある時は、外レク、外出にて買物されたり、皆様で1泊温泉に行かれたり、家族様が面会に来られた際、一緒に外出され外食されたりして支援している。	天候にもよるが、ほぼ毎日近隣の公園などへ散歩に出かけたり、買い物や外食、季節毎の外出行事等を行っており、できるだけ多く外出ができるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方は、職員がお預かりしていますが、金銭管理の出来る方は小額自己管理して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から電話が来たときや本人が電話を掛けたいと言われた際は、ホームの電話を使用させて頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、常に清潔にし不快な音や光を出さないように注意をし、月ごとに利用者様にお手伝いをして頂き、季節に合わせた装飾をしている。外出した時の写真を廊下に貼らせて頂いたりしていつでも見られるようにしている。	リビングは採光が良く、利用者が一緒になって作ったクリスマス飾りのちぎり絵や行事写真などを飾っている。また、施設内の冷暖房設備から各居室内に冷暖房が行き届くように、各居室の入口上部に通気の開口箇所があり、夏は涼しく、冬は暖かい空気が入り、快適に過ごしやすい生活空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で過ごせるリビングソファとダイニングテーブルで個々になれる場所や気に入ったところがあり、レクやお話をされながら楽しく過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、利用者様の馴染みの品やお好きな物を持ち込んでもらい安心した空間を作り過ごして頂いている。	利用者の使い慣れたものや馴染みのあるものを持参し置いてあり、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに目印を付けたり、居室に表札をつけて、混乱や失敗を防ぐようにしている。			